

## ○芳川渡し場まつり

10月25日、衣浦港高浜地区において芳川渡し場まつりが開催されました。本祭は平成3年から行なわれており、今年で17回目を向かえます。

この祭は衣浦港を挟み、西三河と知多半島を結ぶ交通の大動脈として利用された渡船を後世に残していくことを目的に、市民団体の渡し場かもめ会や地元自治会などの主催により行なわれています。

祭は地元小学校の金管バンドの演奏で始まり、事前に募集をしていた海の標語の表彰などが行なわれたあと、メインである嫁入り船の再現が行なわれました。花嫁・花婿役には、前日の24日に式を挙げたばかりのお二人が乗船し、また仲人役には森前高浜市長が努め、船出とともに観客から一斉に拍手が送られていました。



花婿、花嫁を乗せた渡し船

## ○第28回半田市民マラソン大会



大会の様子

11月1日、第28回半田市民マラソン大会（主催：半田市・半田市教育委員会・半田市体育会）が半田運動公園陸上競技場にて行われました。大会当日は雨が心配されましたが、2.2km（ジョギング部門）から10km（一般競技部門）まで幅広い部門に、老若男女3,700人を超えるランナーが、ときどき薄日が差す秋空のもと、思い思いに快走していました。



表彰台(右がK係長です)

三河港湾事務所からも3名の職員が参加し、そのうちK係長が30歳代男子10km部門で3位という結果をおさめる力走を披露。スポーツの秋を満喫した1日でした。



## ☆お知らせ☆

### ウォームビス始めました

中部地方整備局では、「地域温暖化防止及び省エネルギーへの取り組み」として、11月1日から3月31日までウォームビスを実施しています。

暖房の設定温度は19℃を目安とし、職員は、寒さのしのぎやすい服装（セーター、カーディガン等）を着用して仕事をしております。

その他年間通しての取組みとして、昼休みや長時間席を外す際の照明の消灯や、コピー機などOA機器の電源の切断などを行っています。

公用車は、「やさしい発進」や「アイドリングストップ」などエコドライブに努めています。



あったかい工夫いろいろ  
楽しみながらウォームビス

★ ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧いただけます。http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp ★



## Mini-WANとは

港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

### ■巻頭コラム

### ■最近のトピックス

- 三谷祭
- 大浜でらまちウォーキング（愛知県碧南市）
- 三河港湾内見学（浜松市立篠原小学校、名古屋市立万場小学校）
- 第2回伊勢湾再生海域検討会三河湾部会開催
- アカウミガメの来る表浜海岸の自然観察会
- 芳川渡し場まつり ○第28回半田市民マラソン大会

### ■お知らせ

- ウォームビス始めました

## ☆CONTENTS☆

## ☆巻頭コラム☆

### 三河港湾事務所長 平井 洋次

以前、今年は台風が来るのでしょうかと書きましたが、伊勢湾台風から50年の今年、三河湾に台風が来ました。ご存知のとおり10月8日の台風18号です。本件については、Mini-WAN 10月号でもトピックスとして記載しました。あれから一月以上経過し、やや忘れ去られているような気もしますが、改めて台風と高潮の恐ろしさを実感したものであります。特に以前から津波、高潮時のコンテナ流出の危険性は指摘されていましたが、今回まさにそれが現実のものとなったところであります。

当事務所においても、防災訓練を行っていても見落としていたことを気付かせてくれました。一例をあげると、普段から防災訓練等において、停電時の非常用発電機の起動確認は行っております。台風18号が来た10月8日もやはり明け方から停電になり、手順どおり非常用発電機が自動的に立ち上がり、電気が供給されたのですが、執務に必要なエリアには電気が来ないという事態に陥りました。どうにか電気が供給されているエリアにパソコン等を移動させ、外部とのやり取りができる環境は一応確保しましたが、結局一日事務所はほとんど暗いままという状況でした。いざという時に、組織として機能しなくなるのでは、地域に対しても貢献しようがありませんので、現在、非常時の電源等について、あるべき姿を見直しているところです。災害は来て欲しくありませんが、再び来たときには今回の反省点を踏まえた対応が出来るようにしたいと思います。

なお、台風18号が来襲した時の潮位データは当事務所のホームページでもご覧いただけます。

## 「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

お問い合わせ 0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



## 国土交通省中部地方整備局 三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1  
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

## 衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地  
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>  
E-mail [info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp](mailto:info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp)

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。



## ☆最近のトピックス☆

### ○三谷祭

10月17日、18日に蒲郡市三谷町にて三谷祭が行なわれました。

三谷祭は山車（やま）と呼ばれる大きな車を氏子（うじこ）と呼ばれる大勢の男性が力強く引き回しながら八剱神社と若宮神社の間を練り歩く日本でも珍しい祭りです。

今から300年前、三谷村の庄屋佐左衛門が、村の中央にある産土神八剱大明神が、神輿に乗って三谷村東辺の若宮八幡へ渡御される夢を見た、これを神のお告げとして重陽の節句の9月9日を吉日と選び、神幸の儀式を執り行ったのが「三谷祭」の始まりと伝えられています。

日曜日には絶好の秋晴れのもと「海中渡御（かいちゅうとぎょ）」が行なわれ、光り輝く4台の山車が氏子に引かれながら海を進む、迫力のある光景に大勢の観客から歓声が上がっていました。



氏子に引かれ海を渡る山車

### ○大浜てらまちウォーキング(愛知県碧南市)

10月18日、碧南市寺町地区で開催された「大浜てらまちウォーキング」（主催：大浜地区歩いて暮らせるまちづくり推進委員会 主管：大浜てらまちウォーキング実行委員会）に参加してきました。この取り組みは、今年で10年目を迎えます。



まちなかを歩く様子

当日は晴天に恵まれ、また、名古屋鉄道（株）主催のイベントが開催されていたこともあり、多くの人で賑わっていました。今回は「大浜てらまち巡り」というスタンプラリーに参加させて頂き、古い町並みを眺めながら、途中途中にある休憩スポットで休憩を取り、2時間位の時間をかけて全てのスタンプを集める事ができました。

それぞれのお寺には地元の中学生在がスタンプを押す係として配置されており、とても丁寧に対応されていたことが印象的でした。

### ○三河港港内見学(浜松市立篠原小学校、名古屋市立万場小学校)

10月19日、浜松の篠原小学校5年生、11月2日、名古屋の万場小学校5年生の児童を対象にした三河港見学を行いました。子ども達は社会科の授業で、「我が国の工業や工業生産を支える貿易や運輸の動き」について学んでおり、この日は、車の製造工場の見学、バスから神野ふ頭地区の見学、そしてポートインフォメーションセンター・カモメリアでは、展望台から三河港についての説明を聞いて、日本の貿易における三河港の役割についての学習を行いました。

カモメリアの展望台から輸出前の車が整然と並べられる様子を見たり、大きなガントリークレーンの形やコンテナが積み上げられている様子、鉄くずを磁石のついたリフトで移動させている様子など、初めて見る光景に驚き、興味深く説明を聞いていました。

港を身近に感じ、また大きな役割をもっていることを実感してもらえ学習になったのではないかと思います。



カモメリアの展望台からの学習



### ○第2回伊勢湾再生海域検討会三河湾部会開催

10月23日、豊橋商工会議所にて第2回伊勢湾再生海域検討会三河湾部会（事務局：三河港湾事務所）が開催されました。

三河湾部会においては、伊勢湾再生海域推進プログラム（平成20年3月）に位置づけられた「多様な生物がいきづくうみの保全」に向け、三河湾において大きな懸念材料である「貧酸素水塊」の抑制に効果が期待できる方策やモニタリングについて検討を進めるものです。

最初に、部会長である中田教授（東海大学海洋学部）より、「貧酸素水塊の抑制が三河湾を再生していくうえで非常に重要」「今回の議論では各対策について優先順位をつけていく」と挨拶。その後、部会長の議事進行のもと「三河湾再生に向けた施策案」に関する活発な意見・議論が交わされ、最後に「干潟、浅場造成を優先的に考える」とうことでまとめることができました。



部会での検討の様子

今後、事務局としましては、今回の議論を踏まえ、数値シミュレーション等により検討を深めた上で、次回開催（平成22年2月予定）までに対策の具体化を図る予定です。

### ○アカウミガメの来る表浜海岸の自然観察会

10月24日、豊橋市環境保全課の主催により、表浜海岸でアカウミガメの自然観察会が開催されました。観察会には市内から約60名の親子連れなどが参加しました。

観察会は表浜特有の海岸に生息する植物について観察した後、アカウミガメのふ化調査を行ないました。表浜海岸におけるアカウミガメの産卵は毎年5月下旬から8月下旬に行なわれ、産卵された卵は約60日でふ化するようです。このため、今回の調査はふ化する最後の卵という事でした。



砂の中のアカウミガメの卵

カメは、は虫類ということで肺呼吸をする動物です。実は卵も呼吸をしていて、先日の10月8日に来襲した台風18号の影響により、かなりの卵が死んでしまったり、流出してしまっただけでなく、大きくなって戻ってくるアカウミガメは卵5,000個の中の1匹ほどと聞きまして、今回確認した内の1匹でも故郷の表浜海岸にたどり着いて欲しいと感じました。

